

演題：臨床現場の医療情報管理とAI活用

ーRS_Baseが切り拓く次世代診療

所属：リバーサイド内科クリニック / 株式会社 Medical-In

氏名：山下 郡司 先生

第81回全国臨床糖尿病医会学術集会 日時:2026年4月12日(日) 会場:第一ホテル両国5F 北斎

1.イントロダクション:日本のデジタル史と医療情報管理の変遷

日本のデジタル史を振り返ると、1978年の「インベーダーゲーム」の熱狂に始まり、1979年のPC-8001発売によるマイコンブーム、そして1995年のWindows 95登場に伴うインターネットの爆発的普及という、大きな節目がありました。さらに、2008年のiPhone上陸は社会をモバイル中心へと大きく変化させました。

一方、診療所における情報のデジタル化は、医師の高齢化、デジタル機器への不慣れ、医療ソフトウェア不足などの要因により、長らく停滞を余儀なくされてきました。

しかし近年、徐々に進んできた医療現場のデジタル化やクラウド化に加え、2023～2025年に到来した「生成AIの衝撃」は、医療DXを新たな段階へ加速させる可能性を示しています。

これまでのIT化が単なる「記録の電子保存」に留まっていたのに対し、生成AIは蓄積された膨大なデータを「臨床的な知恵」へと即座に変換する能力を持っています。このパラダイムシフトにより、医療情報は「保管するもの」から「活用するもの」へと、その価値を大きく変えつつあります。

2.RS_Baseの誕生と進化:統合ファイリングシステムとしての基盤確立

RS_Baseは、1998年5月の内科診療所開業を契機として、演者独自の視点から構築が開始されました。Webブラウザベースで動作し、情報の即時性と共有性を重視したRS_Baseは、実臨床に役立つソフトウェアとして発展を続けています。RS_Baseは、メーカーごとに分断された「医療データの壁」を越え、多科にわたる多種多様な検査機器との自動連携を実現しています。

・ベンダーニュートラルな統合

血液データ、画像、診療録、紹介状など、多様な形式のデータを一元管理可能としています。

・手入力からの解放

数値データや画像の自動取り込みにより、転記ミス可能な限り減らし、医療安全性の向上に寄与しています。

・時系列の可視化

過去から現在までの全データを、Webブラウザ上で直感的に俯瞰できます。

RS_Baseは単なるファイリングシステムを超え、メーカーの壁を越えてデータを集約する基盤を構築しています。この基盤こそが、次世代のAI活用型診療へとつながっています。

3.AIを利用したプログラム開発

近年では、AIを利用したプログラム開発により、RS_Base関連ツールの開発スピードが大幅に向上しました。代表例として、以下のようなシステムがあります。

RS_Web_Viewer

従来の実行ファイル(exe)型システムを排し、Webブラウザ上で高速に動作するDICOM閲覧環境を構築しました。異なる検査画像を同時表示できるほか、jpgやmp4の表示にも対応しています。

eGFR Slopeによる腎機能予測

過去の数値推移から年間低下率を算出し、クレアチニンあるいはシスタチンCを用いて将来のeGFRを予測表示します。長期・中期の2種類の予測ライン表示に対応し、表示期間も柔軟に変更可能です。

4.実践デモ:臨床データとAIの高度な連携

RS_Baseのインターフェースは、蓄積されたデータを即座にAIへ受け渡す「架け橋」として機能します。現状では試作段階の機能も含まれますが、以下のような応用が進んでいます。

SOAP形式診療録の自動生成

EdgeやChromeの音声入力機能を活用し、診療中の会話からAIが即座にSOAP形式の診療録を生成します。診療記録入力の大きな補助となります。

紹介状内容の校正

AIとのAPI連携により、紹介状内容の半自動校正が可能となっています。

血AI(血液データ解析)

血液データと所見をAIへ送信し、考えられる「7つの疾患」とその「確率」を提示します。診断時の見落とし防止に役立ちます。

薬理作用テーブル作成

薬歴情報から、成分、作用機序、適応病名、併用注意などを

整理したテーブルをAIで自動生成できます。

高度なOCR活用

他院からのPDF紹介状などをSnipping Toolで領域選択し、AI OCRを用いて高精度に文字起こしを行います。電子カルテへの転記やデータ化を効率化できます。

結語

RS_Baseの本質的な役割は、単なるデータの電子保存ではありません。医療現場に散在する情報を統合し、AIという強力な「知恵」の源泉へ効率的に受け渡す基盤を構築することにあります。

RS_Baseがもたらすこの基盤は、臨床の質向上に寄与し、診療所医療をさらに発展させる一助となることが期待されます。

1

臨床現場の医療情報管理とAI活用

— RS_Baseは何を担えるのか —

演者：山下郡司（内科医師）

【利益相反(COI)開示】
RS_Baseの販売・サポートを行う株式会社Medical-In 共同代表

2

日本のデジタルヒストリー：転換点の軌跡

1978: インバーダーゲーム
1979: PC-8001発売
1995: インターネット
2008: iPhone3G 日本上陸
2009: 初代Android発売
2023: 生成AIの衝撃
2023: 生成AIの普及・多様なAIツール
2023: AI革命 2023

3

RS_Base 誕生の背景

Origin: 1998年5月 内科診療所 開業
Problem: 医療情報のデジタル化遅滞
Insight: 現場が求める「管理ソフト」不在
Action: 1998年12月 RS_Base 構築開始

インターネット用の掲示板を作った経験を生かしてソフト作成にあたりました。

4

医療データの壁をなくす、統合ファイリングシステム【RS_Base】

すべての医療データを一つに統合
あらゆる検査データを時系列で一元管理
手入力から解放され、業務効率を改善

447機種以上の検査機器と自動連携
データの取り扱いをなくし、転記ミスを防止

多様な形式のデータをシンプルに表示
画像、血液データ、紹介状など、院内の全データをまとめて管理します。

人的ミスをなくすことで、医療の安全性と業務効率を劇的に改善します。

5

RS_Base × AI：次世代医療への架け橋

第1部：RS_BaseとAI連携の具体例

Step 1: データ集約の基盤
Step 2: AI連携による価値創出

RS_Baseに集まるすべての医療情報の管理
診断支援・効率化・予測医療

6

診療・業務を変える4つの生成AI

— GPT-5.4 / Gemini 3.1 / Claude 4.6 / NotebookLM の使い分け —

OpenAI GPT-5.4	Gemini 3.1	Claude 4.6	NotebookLM
思考・文・マルチモーダルAI ● 高度な多言語対話 ● マルチモーダル理解と生成 ● 複雑な推論・コード生成 ● 高速レスポンス ▶ 「考えるAI」「書くAI」(維持)	Google連携・超長文コンテキストAI ● 100万トークンの超長文理解 ● Google Workspace連携 (Gmail, Docs etc.) ● 検索とリアルタイム情報の統合 ● マルチモーダル (画像・音声・動画) ▶ 「調べるAI」「統合するAI」(維持)	人間のような記述・AIエージェントAI ● 非常に自然で長文の日本語記述 ● 正確な指示の追従 (Steerability) ● AIエージェント (Tool Use) 機能 ● 高い倫理的配慮 ▶ 「代行するAI」「記述するAI」	資料専用・情報(クラフティング)重視AI ● 自分の資料(PDF, URL, Google Docs)のみを学習対象に ● 論文・マニュアルの高精度要約 ● 出典明示・引用に非常に強い ● 幻覚(ハルシネーション)を極小化 ▶ 「資料を読むAI」「裏付けAI」(維持)

使い分けが重要

目的	最適なAI
発想・文章・構造化	GPT-5.4
画像・検索・Workspace連携	Gemini 3.1
AIエージェント・自然な記述	Claude 4.6
院内資料・論文活用	NotebookLM

▶ RS_Baseのような「データをAIに渡せる基盤」があると真価を発揮

送信データを学習に使用しない設定必須

